

※会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。 ※カタログに記載された内容および製品の仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。
※本カタログの記載内容は2013年1月現在のものです。 ©2013 OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.ALL rights reserved.

奉行V ERPでパフォーマンスを大幅改善

会計報告書の作成効率化、 グループ連結決算の早期化を実現

奉行V ERP 導入モジュール

- ▶ 勘定奉行V ERP [個別原価管理編]
- ▶ 債権管理 Pro
- ▶ 債務管理 Pro
- ▶ 管理会計
- ▶ 固定資産奉行V ERP
- ▶ OBC Management Studio
- ▶ BACKUP for 奉行V ERP

先導技術で未来を創る
株式会社 **オービックビジネスコンサルタント**
URL <http://www.obc.co.jp>

東京 〒163-6032 新宿区西新宿6-8-1住友不動産新宿オークタワー32F	TEL 03-3342-1880(代) FAX 03-3342-1874
札幌 〒060-0003 札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル6F	TEL 011-221-8850(代) FAX 011-221-7310
仙台 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 鹿島広業ビル7F	TEL 022-215-7550(代) FAX 022-215-7558
関東 〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-9-6 大宮センタービル7F	TEL 048-657-3426(代) FAX 048-645-2424
横浜 〒220-0004 横浜西区北幸1-11-15 横浜STビル7F	TEL 045-322-0922(代) FAX 045-322-3648
静岡 〒420-0851 静岡市葵区黒金町11-7 三井生命静岡駅前ビル4F	TEL 054-254-5966(代) FAX 054-254-5933
金沢 〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス金沢8F	TEL 076-265-5411(代) FAX 076-265-7068
名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦1-16-7 NORE伏見ビル7F	TEL 052-204-3350(代) FAX 052-204-3354
大阪 〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル23F	TEL 06-6367-1101(代) FAX 06-6367-1102
広島 〒730-0032 広島市中区立町2-27 NBF広島立町ビル4F	TEL 082-544-2430(代) FAX 082-541-2431
福岡 〒812-0039 福岡市博多区冷泉町2-1 博多祇園M-SQUARE 9F	TEL 092-263-6091(代) FAX 092-263-6099

販売代理店

先導技術で未来を創る
株式会社 **オービックビジネスコンサルタント**

奉行V ERP 導入事例

リスクモンスター株式会社

奉行V ERPでパフォーマンスを大幅改善

会計報告書の作成効率化、グループ連結決算の早期化を実現

課題

- ① 日常業務の処理パフォーマンス改善。
- ② 月次決算・グループ連結決算の早期化。
- ③ 会計報告書の作成業務の効率化。

効果

- ① 奉行V ERPの導入により、入力・検索・集計等のパフォーマンスを大幅改善。
- ② 決算業務を10営業日から6営業日に短縮し、決算早期化を実現。
- ③ Excel加工を不要にし、従来と同一フォームの会計報告書をシステムから即時出力可能に。

▶ 導入前の課題と導入に至る経緯

会計ERPの操作性やパフォーマンスの改善が急務に

リスクモンスター株式会社は、インターネットを活用したASP方式による「与信管理アウトソーシングサービス企業」の先駆けとして2000年9月に誕生し、2005年3月にはJASDAQ(当時ヘラクレス)への株式上場を果たした。同社を親会社とするグループは現在6社を展開し、グループウェアの開発販売やBPOサービス、人材開発支援など、主に企業のバックオフィスに関連する数々の支援サービスを提供している。

同社には、当時、利用2年目となるERPシステムが導入されていたが、WEBベースであったためパフォーマンスや操作性に大きな課題があり、日常業務をはじめ、月次決算や会計報告書作成、グループ連結決算に至る会計業務全体に支障をきたしていた。

当時の状況について、管理ソリューション部経理課長の吉田麻紀氏は次のように振り返る。「当時のERPは、管理簿や勘定明細など様々な出力をそのまま使用できず、Excelによる加工と管理が必要な業務が多かったです。入力・検索・集計など全般的にパフォーマンスや操作性が非常に悪く、日常的にストレスを感じていました。決算を1日でも早く締めたいという思いがありま

したが、システムがうまく機能せず、月次決算では報告資料を作り上げるところまでを含めると10営業日かかっている状況でした。」

このような中、システムの入替えを本格的に検討するきっかけが訪れる。開発グループ統括部長の奥山昌幸氏は次のように語る。「顧客会員を管理するため、当時のERPには桁数変更のカスタマイズを加えていました。2009年の税制改正時にシステムの対応が必要となりましたが、カスタマイズが原因でバージョンアップが行えないという問題が起こりました。結局、導入時とほぼ同等の費用が掛かることがわかり、それであれば、現状の問題も解決できる新しいシステムに入れ替えようということになったのです。」

こうして、パフォーマンス改善を中心とした会計業務の課題解決を目指し、新たな会計基盤の検討を開始することとなった。

▶ 選定のポイント

日本の経理業務のスタンダードである奉行V ERP 日常業務の効率性や安心感が決め手

システムの選定に際しては、導入範囲を会計、債権債務管理、経費精算ワークフロー、固定資産管理とし、奉行V ERPの他に、海外大手ERPを含む3社で比較検討を行った。選定時のポイントについて、吉田氏は次のように語る。

「それぞれのシステムも要件を満たしており、パフォーマンスの課題も解決ができました。1社はシステム要件として挙げていた未承認伝票の集計が追加オプションでの対応でしたのでコストが見合わず、最終的には2社で比較検討を行うことになりました。将来的に、グループ企業の海外展開を見据えた時、海外製ERPの方が良いのではないかと考えましたが、奉行V ERPは日本の経理業務のスタンダードですので、日々の業務の効率性や安心感を考えると、やはり一番使い易いと感じました。」

約3か月に及ぶ検討の結果、同社では新しい会計基盤として奉行V ERPの導入を決定した。

▶ 導入効果と今後の展望

月次の会計報告書作成スピードを大幅に短縮 決算早期化を実現し、会議の開催日も前倒しに

導入決定から半年後の3月、全てのシステムが本稼働を開始した。課題であった処理パフォーマンスや操作性については大幅に改善できた。「奉行V ERPは操作性や検索性が良いので、担当者がシステムに慣れるのも早かったと思います。なによりレスポンスが非常に良くなったので、システムへのストレスが無くなりました。」(吉田氏)

また、導入後は、特に月次の会計報告書作成にかかるスピードが大幅に短縮し、月次決算の早

■ リスクモンスター株式会社

本社住所…東京都千代田区大手町
従業員数…連結89名(2012年3月末現在)
資本金…1,107,428,191円(2012年3月末現在)
年商…グループ連結24億円(2012年3月期)

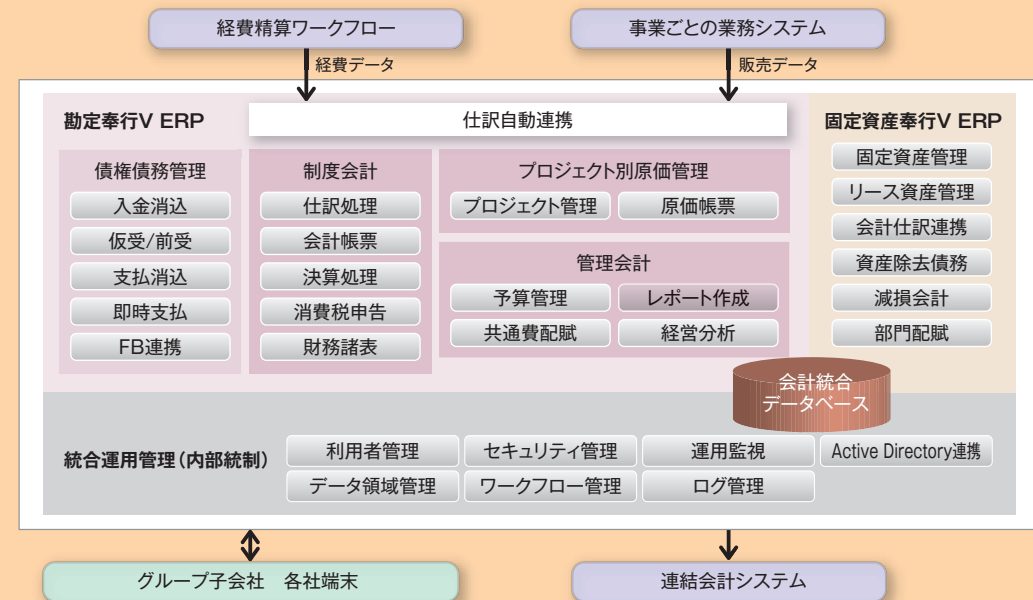
事業内容…与信管理ASPサービス事業および関連コンサルティング事業営業支援、人事・総務系サービス、デジタルデータ化サービス等の各種BPO事業

インターネットを活用した与信管理サービスを提供するリスクモンスター株式会社。2005年にはJASDAQ(当時ヘラクレス)への株式上場を果たし、現在、同社を親会社とするグループは6社を展開する。



● システム概要図

リスクモンスター株式会社では、展開する事業ごとの正確な原価管理と採算性把握を実現するため、会計のコアシステムにはプロジェクト原価管理が可能な「勘定奉行V ERP [個別原価管理編]」を導入。債権債務管理の実現に「債権管理オプション」「債務管理オプション」を、会計報告書作成の効率化実現に「管理会計オプション」を追加。また、経費精算ワークフローシステムや業務システムからは仕訳データを自動連携している。



- システムのポイント
- 奉行V ERPの導入により日常業務の処理パフォーマンスを大幅に改善。
 - 事業サービスごとに異なる複数の業務システムとの仕訳データ自動連携を実現。
 - 経費精算ワークフローとの経費情報・回収異常情報の自動データ連携を実現。
 - 業務処理パフォーマンスの改善と、「管理会計オプション」による会計報告書作成の効率化により、決算締め業務が10営業日から6営業日に短縮。
 - 「管理会計オプション」を利用することで、会計報告書作成のためのExcel加工業務を無くし、以前と同一フォームの報告書を即時出力可能に。
 - 部署別の予算実績管理の実現により進捗管理や採算性把握が可能に。
 - 取り出しやすく見やすいログ管理の実現により、監査法人へのIT統制報告作成業務を効率化させ、内部統制の強化を実現。

期化を実現した。その効果について吉田氏は次のように評価する。

「奉行V ERPを導入したことで、レポート周りの非常に早くなりました。奉行V ERPから出るレポートは一切Excel加工することなく、そのまま使用して取締役会に報告を行っています。現在では、決算の速報値であれば6営業日以内で出せるようになりました。様々なレポートの作成と出力までを含めても7営業日には必ず終わります。実は、レポート自体は今までExcelで加工していたものを奉行V ERPで自動出力できるようにしていただけなので、見た目そのものは以前から全く変わってはいませんが、報告に至る日数が全く違うのです。実際、会議を行う日程が3日も早くなりました。」

また、開発ソリューション部開発第1課課長の有井次郎氏は、グループにおける連結決算早期化への効果について次のように続ける。

「拠点やグループ企業をネットワークでつないだことで、リアルタイムに子会社の数字が確認できるようになり、連結決算の業務が大きく変わり非常に効率化されました。今は、多角化のための拡張に対してもスムーズに対応できる基盤ができています。」

付加価値を高めより顧客満足度の高いサービスの提供へ 今後はサービス毎の管理性を高めていく

最後に同社の今後の展望について奥山氏に伺った。

「これまで当社のサービスは、ひとつのサーバー上で動く同一プログラムをマルチテナントとして



開発グループ統括部長 奥山 昌幸氏



管理ソリューション部 経理課 課長 吉田 麻紀氏



開発ソリューション部 開発第1課 課長 有井 次郎氏

提供していましたが、今期からは新たな取り組みとして、お客様ごとのニーズ合わせ、カスタマイズを加えたサービスを提供しはじめています。今後は、基本的なサービスの付加価値を高め、より顧客満足度の高いものを提供していこうと考えています。そうすると個別の収益性がより重要となってきます。今回、奉行V ERPの導入によって会計基盤が整いましたので、次はプロジェクトごとの管理性を高めていきたいと考えています。」

(以上)